

自治医科大学附属さいたま医療センターで災害医療に関する特別講演をしました (2016/2/2)

テーマ：過去の大災害の教訓と未来にむけた対策

会場：自治医科大学附属さいたま医療センター（大宮市）

2016年2月2日（火）に大宮市の自治医科大学附属さいたま医療センターの防災講演会で、江川新一教授が『過去の大災害の教訓と未来にむけた対策』として特別講演を行いました。同センターは災害拠点病院のひとつであり、2015年の関東東北豪雨災害のときにはDMATを1チーム被災地に派遣して、医療ニーズのアセスメントと、透析病院から患者さんを搬出する際のヘルスチェックを行ったことなどがDMAT隊員医師から報告されました。

220名の参加者は、医師、看護師、薬剤師、技術職、事務職を含む病院の全職種にわたります。防災講演会は年に1回開催されており、職員の防災意識の向上に寄与するものです。日本集団災害医学会での江川新一教授の発表をきっかけに、災害保健医療の備えと、東北大学における災害医療教育をテーマに今回の招待講演が企画されました。

江川新一教授はアンサーパッドシステムを用いて参加者と双方向性にやりとりすることで、参加者の内発的な動機付けを促し、学習のプロセス（ニーズ、目標、方略、評価）を実践しながら、災害において人々の健康と財産を取り囲むクラスターとして保健医療があること、災害におけるリスクと防災の考え方、東日本大震災における教訓と対策の改善、仙台防災枠組などについて約70分講演しました。

保健医療従事者のなかで、防災意識が高い職員のなかでも、仙台防災枠組やクラスターアプローチなどの国際的な防災・災害対応のメカニズムはほとんど知られていません。また、わが国の災害医療体制における災害拠点病院やDMATについては70%の参加者が知っていると答えたものの、SCUと広域搬送、EMIS、災害医療コーディネーターについては20%以下の認知度でした。江川新一教授は誰しもが災害にあう可能性があることを強調し、災害医療の基礎知識として用語や考え方を講義し、アンサーパッドで理解度を確認しながら講義しました。

200名の参加者は最後まで熱心に聴講し、講義に対する評価も高いものでした。IRIDeSは災害医学研究部門をもつ世界でもまれなマルチクラスター研究所として、災害医療を担う人材と、一般の医療職との間、保健医療クラスターと他のクラスターの間で相互理解を進めていきます。



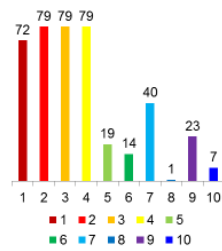
講演する江川新一教授



病院職員で満席の講演会場

知っている用語を選んでください(複数回答)

1. ハザード
2. リスク
3. 災害拠点病院
4. DMAT
5. EMIS
6. SCUと広域搬送
7. 災害医療コーディネーター
8. PFA
9. ロジスティックス
10. 受援力



選択肢が1,2,4のときは124を
押してからOKボタンを押す
10は0を押してください。

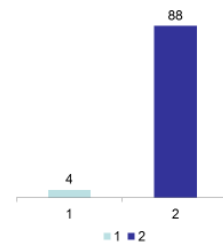
投票数: 93

Division of International Cooperation for Disaster Medicine



仙台防災枠組という言葉

1. 知っている
2. 知らない



選択肢が1,2,4のときは124を
押してからOKボタンを押す

投票数: 92

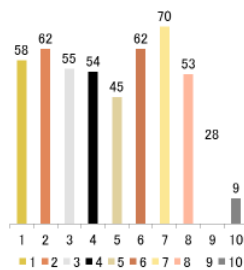
Division of International Cooperation for Disaster Medicine



災害に関する用語のプレテスト

知っているものを選択してください(複数回答)

1. 災害拠点病院
2. DMAT
3. DPAT
4. DHEAT
5. SCU
6. 広域医療搬送
7. 災害保健医療コーディネーター
8. EMIS
9. 受援力
10. BCP



選択肢が1,2,4のときは124を
押してからOKボタンを押す

投票数: 81

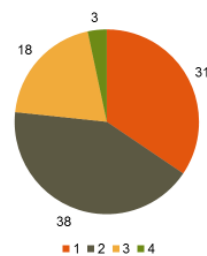
Division of International Cooperation for Disaster Medicine



講義した内容のポストテスト

講義の評価をお願いします。

1. とても面白かった
2. 面白かった
3. まあまあ
4. つまらなかった



投票数: 90

Division of International Cooperation for Disaster Medicine



講義の評価

文責：江川新一（災害医学研究部門）